

(日々雑感 18)



もはやこれまで。

という感じです。

万策尽きた。

昨日あることがあって、そう思いました。

手助けを「申し訳ない」と思い「ならば少しでも自分で」と「自立」に向かうのではなく、何故か皆「あいつに任せておけば良いよ」と依存に向かってしまう。あるいはぼくが向かわせてしまう。

それが、家族の中のことだけだと思っていたのですが、そうではなかったのです。

具体的に書くと差し障りがあるので、書きませんが、昨日、同時に同じ傾向のことが三つ起こったので、多分そうなっているようです。

こと家族のことで言えば、自立に向かってもらうために、家を出たのに、それが更に「依存継続と引き出しを求める恐喝」へとパワーアップさせてしまっている。もはやこれは犯罪の温床レベルの問題ですらあります。止めなくてはいけないのですが、未だ方法が分かりません。

何故そうになってしまうのか？そうさせてしまうのか？

一つ思い当たるのは「安全なところにいてもものを言う資格はない」「リスクを取らずにすることは保険付き冒険でしかない」というぼくの考え方が、周りの人の依存にとって誠に好都合なのではないかと言うことです。

「丁度良い。本人がその気になっているんだから、危険とリスクはお願いしちゃおう」「利用させてもらおう」と。

少し話の角度が変わりますが、三年前、ある会社の社員の「指示待ち」傾向に生産性上の最大の問題有りとして「自発性」をメインにした「自立」を促す改革に自ら申し出て携わったのですが、それ以前の三年間の地道な積み上げの甲斐もなく成果を上げることが出来ずに自主退職しました。

その時、自分に力がなかったのは事実ですが、このままで行けば、この会社とその親会社は、早晩おかしくなると言う確信にも近い予感があったからでもあります。

そうして三年を経た今、その通りになってしまっている。

その予感が正しいなら、この国の多くの「国民」は、自ら何も変えようとしないうり、あと5年を待たずに立ち行かなくなるという思いがしています。

最初、以前の会社も含めて、その原因がひとりひとりの「利己的傾向」にあるのだと思っていたのですが、そうではなく、それ以上に「依存的傾向」が問題なのではないかと最近思うようになっていきます。

特段、何でもかんでも自分が得するように、という「強欲」までないかないけれど、

「自分でリスクを負うことはない。黙っていれば、その内誰かがしてくれるだろう」という傾向。あるいは「自分がしなくても、誰かがすると思ったから」という傾向。

「したいひとに、まかせておけばいいんじゃないの？」というぼんやりとした、しかしとってもしつこい「依存」

以前の会社なら、既に書いたように「指示待ち」

今の社会なら、新たな言い方ですが「様子見」

何かをするための観察としての様子見ではなくて、どうやったら何もしなくて良いかを探るための様子見。永遠の保留。

しかもそれを「今風の成人として」スマートな身の処し方だと無意識に思っているような、いないような。

十年前、家族に「踏ん張ってダメなら最後は寄りかかっても、仕方ないねと認めてもらえる。でも最初から全体重を投げかけてこられたのではだれもうんとは言わないよ。もしはじめから後者狙いなら、それは寄生虫というしかない！」とキツク言ったことがありますが、殆ど寄生に近い依存かもしれないと言う気がしています。

そう思い始めたので、試しに敢えて一切手を貸さないことにしようと思います。

「自分で立って！」か「じぶんでしなよ！」と周りの人も含めて、相手を突き放すことにします。

ぼく個人の事情としても、もう遙かに自分の力量と忍耐の限界を超えてしまっていますから。

このままでは、孤独と疲弊が高じて、自分で自分におかしなことをしかねませんから。

もう過度の背負い込みとうけおいはきっぱり止めます。断ります。

まだ、命が惜しいですから。

あとは、周りの皆さん個々人にお任せします。

リスクも危険も応分負担が妥当でしょうから。「一人全責任を負う」のはカッコいいですが、間違っていますから。